

2016年5月15日（日）Fruitメッセージ 「神の愛 パート5 神は不変のお方」

シリーズでお送りしています。

神の愛 神はどのような方か？

今日はパート5 神は不変の方です。を

お伝えします。

・創世記2章、3章には、神が天と地とそのすべての万象を完成され、そして神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれ、そこで人は生きものとなったこと
神である主は東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。ことが書かれています。

・創世記3：6

「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。
それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも
与えたので、夫も食べた。

いかがですか、悪魔の誘惑はとても巧妙です。
ビルジョンソンの著書「天が地に侵入するとき」で書かれていることを引用するなら

「サタンは、アダムとエバを征服するために、エデンの園に乱暴に侵入してはきませんでした。それはなぜでしょうか？サタンはその園を支配する権利を持っていなかったもので、単純に彼にはそれは不可能だったのです。この支配権は力を伴うものなので、人間に与えられたこの地を支配する「鍵」を狙っていたのです。
禁断の実を食べるようにそそのかした提案は、アダムとエバが神に背きサタンの言うことに彼ら自ら同意することによって、合法的に力を奪おうとするものだったのです。その同意を通してのみ、サタンは盗み、殺し、滅ぼすことができるのです。
これは今日も同じで、サタンは人の同意を通してのみ、権力を持つことができるということを知っておくのは大切です。」と、ビルジョンソンは、書いています。

この箇所を読むと人は自分自身の意志で神の命令に背き、不従順となって罪を犯したことがわかります。前回のパート4で神は全能の方の中でお話しましたが、神を強制する方ではなく、人に自分自身で選択する自由意志を与えられました。それ故にアダムとエバが犯した神の命令に背くという事態が起りましたが、神は人を自由意志を持つ存在として創られた時から、神に従わないというリスクも起こり得ることをあらかじめ予測していました。何故ならこの地上には、悪も存在していたからです。創世記で蛇がエバをまずそそのかしました。この蛇は悪魔です。そのリスクをおかしてでも人に自由意志を与えた目的。そこに神の奥義があります。それについてはまた別の機会に伝えたいと思います。今日は、神は不変の方がテーマです。

・マラキ3：6

「主である私は変わることがない」
ここで神ご自身が「主である私は変わることがない。」
とされています。

・詩99：5

「われわれの神、主をあがめよ。
その足台のもとにひれ伏せ。
主は聖である。」
主は、聖い方です。そして変わることなく、永遠に聖い方です。

・1ヨハネ1：5

「神は光であって、神のうちには暗いところがない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。」

神は、罪を造られませんでした。
罪は悪魔からきています。

・ヤコブの手紙1：13、14

「だれでも誘惑に会った時、神に誘惑された、と
言うてはいけません。
神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。

人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、
誘惑されるのです。」